

マイスター・ハイスクールだより

令和4年度 第2回マイスター・ハイスクール運営委員会を開催

10月21日(金)、第2回運営委員会をオンラインで開催しました。

委員会では、これまでの事業経過について、厚岸翔洋高校の福田校長から説明があり、その後、委員からの質疑や助言等があったほか、産業実務家教員の安藤氏から、授業・実習を通じた生徒の様子等について報告がありました。

これまでの事業経過

学校が目指す事業全体の到達目標の設定 (☆：3年後の目標 ★：長期的な目標)

- ☆持続可能な地域の水産業の創り手 (マリン・イノベーター) の育成を図る教育活動の実施方法・体制の構築
- ☆地域の産業界 (漁業・食・観光関連) との協働体制の構築
- ☆学校設定科目「スマート水産」の履修開始
- ☆海洋資源科の教育課程の見直し
- ☆研究成果報告会の開催
- ☆スマート水産・厚岸産水産物の高付加価値化に関する取組 (学習活動) の継続実施体制の確立
- ★漁業・食・観光の分野での地域創生の担い手の輩出
- ★漁業・食・観光等の地域産業の持続的な成長と地域創生の実現
- ★スマート水産・厚岸産水産物の高付加価値化に関する取組 (学習活動) の継続実施

水産資源・漁家経営の持続化に関する取組

- 小型実習船にマイクロキューブ※1を設置
- 小型実習船にサテライトコンパス※2を設置
- 塩分・水温センサーブイを厚岸港内に設置
- 流速・水温センサーブイを厚岸港外に設置
- レンタルサーバー契約、iPad 購入

※1 水深情報と位置情報を同時に記録する機材
 ※2 衛星電波を利用した方位磁針



スマートブイの設置作業



スマートフォンに送信されたデータ画面

スマートブイからのデータをスマートフォン等でリアルタイムに確認することが可能に!

地域産業の持続化に関する取組

- 外部講師による授業
- 教職員の視察研修
- 厚岸産水産物を利用した新たな料理レシピの開発
 - ▶ 「全国豊かな海づくり大会」の弁当のレシピ開発
 - ▶ 「ご当地! 絶品うまいもん甲子園」応募
 - ▶ STV×ほっかいどう水産高校コラボ企画「アイデアレシピコンテスト」応募
- 未利用資源や混獲生物の有効活用と商品化 (次のページに成果発表の結果を掲載)



「全国豊かな海づくり大会」公式弁当メニューの試作品



「全国豊かな海づくり大会」公式弁当メニューを試作している様子

未利用資源や混獲生物の有効活用と商品化に関する研究成果（「課題研究」での研究開発）

「アメマスの有効利用に関する研究」 ～揚げかまぼこの製造～

未利用魚を加工して付加価値を付ける研究の成果について各種大会で発表

「NoMaps

釧路・根室2022 高校生ビジネス・コンペティション」
地方創生プラン部門 最優秀賞（左）

北海道高等学校水産クラブ研究発表大会 優秀賞

→12/16に秋田県で開催される全国水産海洋
高等学校生徒研究発表大会に出場（右）



高校生ビジネス・コンペティションで発表している様子



北海道高等学校水産クラブ研究発表大会で優秀賞を獲得

運営委員からの指導助言・感想等

スタートして半年が経ち、目指す方向性がはっきりと整理され、関係者で共有されつつあると思う。今後は、関係者はもとより、より多くの地域の方々に、厚岸翔洋高校の取組を知っていただく機会を充実してほしい。

的確な到達目標を立てて、取り組んでいる。ICT化については、海洋環境に関する情報を継続的に測定するといった点で大きな意義がある。厚岸町をスマート水産の起点として、管内にその取組が広がってほしい。

研究成果の報告会を、東京、札幌、厚岸などの会場で開催したり、HPやYouTube等を活用したりして、広く取組をPRしてほしい。また、事業に取り組んだ卒業生の進路先についても、関係機関が協力できる体制を構築してほしい。

「全国豊かな海づくり大会」の公式弁当のメニューとして12品が試作され、着々と準備が進んでいると実感した。また、料理レシピの開発については、商品化が重要ポイントだと思うので、弊社も積極的に協力していきたい。

スマート水産に関する取組が非常に進んでいると思う。赤潮のモニタリングやドローンの活用についても期待できる。また、未利用資源の有効利用は、水産基本計画でも重要とされており、今後更に重要な取組になると思う。

IT技術を活用した取組により、水温や塩分データが私の携帯でも確認できるようになった。漁業者にとっても有効なデータだと思う。有害プランクトン検出機器についても、試験場含め、関係機関と協力して取り組んでほしい。

「全国豊かな海づくり大会」のプレイバントでは、翔洋高校生からカキフライを提供していただき、大変評判がよかった。今後は本事業の取組を中学生にも伝えて、学校の魅力化につなげてほしい。

令和4年度マイスター・ハイスクール事業 中間成果発表会に参加

11月7日(月)、港区立産業振興センター(東京)で、中間成果発表会が行われました。令和3年度の指定校(12校)と、令和4年度の指定校(3校)の計15校が、取組や課題について発表し、企画評価委員から講評を受けました。

また、発表会后、参加者がテーマ毎に分かれて協議や意見交換を行い、本事業についての理解を深めました。

なお、参加校の発表資料、文部科学省のHPに掲載されています。(R4.12.8現在)

(http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/shinkou/shinko/1366335_00001.htm)

【講評】

企画評価委員 石川委員より（JF全漁連 参事）

来年の海づくり大会の開催地となっており、全国から注目されていることから、とても興味深く聞かせていただきました。

卒業生の多くが漁業関係や地元への就職が多いということで、本事業を通して地元産業への大きな貢献が期待できると感じました。

和田CEOによる「スマート水産入門」（講義）の実施

11月22日(火)、厚岸翔洋高校海洋資源科2年生を対象として、和田CEOによる「スマート水産」の講義を行いました。

講義後、生徒から、「定置網漁におけるITの活用に興味を湧いた」、「データを収集することの大切さを感じた」、「内容は理解しきれなかったが、AIなどの技術を使って水産資源を守っているんだと思った」などの感想があり、スマート水産についての興味・関心を高める機会となりました。



和田CEOによる講義の様子